

11月のことば 正しい心② ～ 「修養」の大切さ

堺市が行うタウンミーティングに参加しました。これは市長が100人の市民を集めて公開討論をする形式で、私は前席中央に座し、一番に挙手し、我意見を述べさせて貰い、市長以下の方々の記録するところとなりました。

一つの事を成すには、まず様々な情報に基づく「知識」が必要で、次にその知識を整理した上で一般常識をからめた「見識」が必要。そして最後は、それが天命に即した正しい事との確信のもと、よし！やろう！と腹に決める「胆識」が必要也。

この「知識 → 見識 → 胆識」に高める事ができるのは“人間力”。

この人間力の勉強の事を“修養”と言います。

修養を修めた人々が多くいる時、その国は成功、地域は幸福。

しかし、明治期までに流行ったこの修養が、今はなかば死語。

<日本近代史を思う>

明治の成功の基は、幕末期寺子屋で行なわれていた修養。これが大正時代になると、暗記と計算のできる人をエリートと奉り、国を任せ、現在に至っており、敗戦、失政、失策、愚の連続。

「知識」のみでは何にもならないのです。

<修養とは>

古典に基づく人間学は… (分類の意味で大・中・小として)

大学 ～ 修己知人の学… 政治家等

中学 ～ 契約、調和、創造、造化の学… 監督、社長、仲人等

小学 ～ 修己修身の学… 結局姿勢を正して正しい生活をする事 (内村鑑三)

であり… 人として、こんな場合にどうあるべきかを説いています。

<今月の結論>

幕末に国力弱く、貧しく、西洋列強より不平等条約を結ばされた明治初期。修養を修めた日本の侍達が、一身外国に赴いて日本を挽回する為に交渉した。彼等が最も重んじた修養中の言葉、それは

「義を見て為さざるは、勇なきなり。」(論語) … 正しい事を見て (知って) 何もしないことは勇気のないダメなやつだ、正しい事の為に命をかける、それが日本の武士である。… の意味。

よって彼等の一言には重みと迫力があり、外国人に威力を与えると同時に、尊敬のまなざしで見られたのです。

<現況>

今の政治において… ??????

今の教育現場において、あるいは職場において、授業・会議はいずれも知識論、技術論、方法論のみ ではないでしょうか？

高校野球の優勝監督は曰く「上手い (知識・技術のみ) より強い (心) チームを作りました。」と…。

私は、これより、まず職員とともに“修養”を実施いたしたく、読者皆様の中からも修養仲間ができればと思います。